

「第35回吉田秀和賞」贈呈式 ご取材のお願い

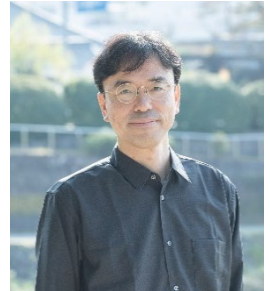
平成2年に創設されました吉田秀和賞は、優れた芸術評論を発表した人に対して賞を贈呈し、芸術文化を振興することを目的として当財団が運営しております。

第35回目となりました今回は、審査委員に片山杜秀氏と堀江敏幸氏を迎え、厳正に審査を行ない、**海老根 剛**氏の『人形浄瑠璃の「近代」が始まったころ 観客からのアプローチ』（和泉書院 令和6年7月刊）を受賞作品として決定いたしました。つきましては、賞の贈呈式を下記のとおり開催いたします。

ご多用のところとは存じますが、ご取材いただけましたら幸いに存じます。

記

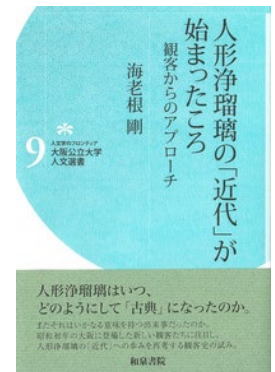
日時：令和7年12月14日(日)15時～16時（プレス受付：14時30分～）
会場：水戸芸術館 会議場
内容：表彰状の授与／講評／受賞者あいさつ ほか
受賞者：海老根 剛（えびね・たけし）
肩書き：大阪公立大学教授



撮影：守屋友樹

「吉田秀和賞」について

- 対象 音楽・演劇・美術などの各分野で、優れた芸術評論を発表した人に対して
- 正賞 表彰状 ■副賞 賞金 200万円
- 審査委員 片山 杜秀（評論家・慶應義塾大学法学部教授）
堀江 敏幸（作家・早稲田大学文学学術院 文化構想学部教授）



〔著者略歴〕

海老根 剛（えびね・たけし）

1971年東京都生まれ。東京大学人文社会系研究科博士課程単位取得退学（ドイツ語ドイツ文学専門分野）。博士（文学）。現在、大阪公立大学大学院文学研究科表現文化学専修教授。専門は表象文化論、ドイツ文化研究。人形浄瑠璃関連の論文に「「無知な観客」の誕生 四ツ橋文楽座開場後の人形浄瑠璃とその観客」（『人文研究』73号、2022年）など。表象文化論・ドイツ文化研究関係の論文に「「大衆をほぐす」-シアトロクラシーと映画（館）」（『a+a 美学研究』12号、2018年）、『群集』を再訪する -ただしパトスなしに- 両大戦間期ドイツ語圏の文学における群集表象の再検討（編著、日本独文学会研究叢書、2024年）など。訳書にイヴォンヌ・シュピールマン著『ビデオ 再帰的メディアの美学』（柳橋大輔、遠藤浩介との共訳、2011年11月、三元社）、ヨアヒム・ラートカウ著『自然と権力 環境の世界史』（森田直子との共訳、みすず書房、2012年）など。

【お問合せ】

公益財団法人水戸市芸術振興財団 吉田秀和賞担当 太田 朝里
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
TEL 029-227-8111 FAX 029-227-8110

《取材申し込み》

12月13日（土）までにFAXまたは電話でお申し込みください。

FAX. 029-227-8110

【御社名】

【御芳名】

人数

名

【連絡先】TEL.